現在を活きる

「当別こども図書館」で心に響く本との出会いの“きっかけづくり”を－。

堀江三千代さん（樺戸町）

昭和 62 年にボランティアによる「当別こども図書館」を開館、その代表を務める。昨年度に図書館の活動実績が伊藤忠記念財団に認められ、児童書の増冊をはじめ看板の設置や子供達が安心して利用できるトイレの改修など、図書館施設の充実化を行っている。約 2,200 冊の蔵書のある同館では、子供達の心に響く本を選び、より良い本との出会いの“きっかけづくり”を大切にしている。当別町出身。夫・信治さんの 2 人暮らし。

「私が子育てをしている頃、町内には現在の青少年センターにしか児童書がありませんでした。当時の児童書は 100 冊あるかどうかの少なさだったので、家庭の一室を“子供達にある程度の図書環境を提供でき、居心地の良い図書館として開放できたら”と願うようになったんです。そこで当時開催されていた『子供の成長と絵本の会』という学習会を通じて、単に本の貸出だけをする場所だけではなく、本と出会える橋渡しができ、子供達が自ら選んだ本を通じて成長する姿を見守り、より良い成長を促せる場にできたらと思うようになったんです」と話す堀江三千代さん。

堀江さんは学習会で出会った 10 名の母親たちとともに昭和 62 年 12 月、緑町にある実家の離れを利用し、「当別こども図書館」を開館。開館 15 年目の現在では堀江さんと田中とも子さん（西町）の 2 名で運営しています。

同館は毎週水曜日の午後 1 時から 4 時まで開館、子供達に本の貸出や紹介をしていますが、館内では子供の成長に合わせた配置や、教科書に出てくる本・あそびの本・現在絶版になっている本・外国の原書と翻訳された本の比較ができるコーナー、表紙が見えるような手づくりの本棚など、子供達が探している本を見つけやすいよう工夫されています。

また館外では、妊婦対象の「マタニティーコース」に参加のお母さん達に、図書館の案内とともに絵本の紹介をしているほか、町内の西・南・北保育所（3 カ所）に週 1 回訪れ、園児達に読み聞かせをしています。

「口コミで来てくれた子供達から、『ワーッ、こんなに本があるんだ』とビックリされたり、読み聞かせを楽しみに待っていてくれる園児達から『来週もまた来てねー！』などと抱きつかれたりされるのが嬉しいですね」と笑います。

昨年度は、青少年の健全育成を目的に全国で子ども文庫活動に従事している草の根ボランティアグループや個人へ助成活動などを行っている伊藤忠記念財団の「子ども文庫助成事業」の助成先として選定されました。

児童の読書についての啓発・指導に関する民間の有益な活動の目的達成のため、堀江さんは図書館のトイレの改装・図書や備品の充実に活用しました。

「小さな子供達の常連が多いので、きれいで安心して使えるトイレの改装がどうしても必要でした。また、傷んだ絵本や本の買い替えを永年我慢してきましたが、きれいな本を手渡したい・成長していく子供達に合った本を増やしたかったので、新たに 270 冊の児童書を購入できたほか、建物こそ老朽化していますが“人目に付きやすい看板”を作製することができ感謝しています」と話します。

堀江さんは、「（図書館は）当別小学校体育館の向かいという好位置にあるので、子供達にもっと大勢来てもらえるような努力をしなければならないと考えています。現在行っている小学校での本の読み聞かせだけでなく、本を手にせずに楽しい話をする“おはなし”も試みたいと考えています」と微笑みます。

また、「子供達をいつも元気に迎え入れ、これからも末永く続けていきたいです。それから、幼い子供を持つお母さんが、子供達と一緒に来館していただけたら嬉しいです」と話します。

広報「とうべつ」2月号　平成15年2月1日発行　通巻593号　編集　企画部企画課